

九州教育学会

第73回大会（佐賀）プログラム



1. 期 日 2021年11月21日（日）

2. 日 程

2021年11月21日（日）	
9：00 ～	自由研究発表受付開始
9：30 ～ 12：00	自由研究発表 第1分科会：教育哲学・教育方法 第2分科会：比較教育 第3分科会：教育史・キャリア教育 第4分科会：社会教育・生涯学習 <small>※第4分科会のみ終了時刻が異なります</small> 第5分科会：高等教育・教育行政
12：00 ～ 13：00	休憩
13：00 ～	総合部会受付開始
13：30 ～ 17：00	総合部会

※2021年11月20日（土）15：00～16：00の日程で総会を開催します。

3. 開催方法 Web会議システム zoom を利用してのオンライン開催

4. 参加費 無料

5. 参加申し込み

総会、研究大会共に、参加を希望される方は事前に参加申し込みが必要です。下記申し込みフォーム、またはQRコードからお申し込みください。

申し込みフォームURL <https://forms.gle/syVoCvRbpVzwweAT6>

6. 参加申し込み締め切り 2021年11月5日（金）



大会参加者への皆さまへ

受付

研究大会当日は、各プログラム開始時刻の30分前から受付を始めますので、順次zoomへ入室してください。なお、入室までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもってご入室ください。

大会参加費

オンライン開催に伴い、参加費は無料です。

発表要領

(1) 発表時間

- ①個人研究発表 30分（発表20分 質疑10分）
- ②共同研究発表 60分（発表40分 質疑20分）

(2) 発表資料

発表者から当日配布の発表資料がある場合は、研究大会当日にzoomのチャット機能を活用してPDFファイルにてアップロードいたします。発表者の方は、自由研究発表開始前に発表資料のPDFファイルをアップロードできるよう、ご準備ください。

オンライン開催に関する諸連絡

- Web会議システムzoomを利用するのオンライン開催に伴い、参加を希望される際は、事前にパソコンやタブレット、スマートフォン等にzoomアプリ（無料）をダウンロードしていただく必要があります。予めzoomアプリをホームページ（<https://zoom.us/>）よりダウンロードしてください。なお、zoomアプリは、無料のもので問題なく大会に参加できます。アプリのダウンロード方法がご不明な場合は、大会準備実行委員会事務局（73kyukyo@gmail.com）までお問い合わせください。
- 参加を希望される方は、事前に参加申し込みが必要です。本大会プログラムの1ページ「5.参加申し込み」をご確認いただき、期日までにお申し込みください。
- 参加申し込み時に記載していただいたメールアドレスへ、研究大会1週間前を目途に、参加用URL、zoomミーティングIDとパスコードをお送りします。学会事務局（73kyukyo@gmail.com）からのメールを受信できるよう設定をお願いします。
- オンライン開催に伴い、発表要旨集録の冊子印刷は行いません。11月上旬を目途に学会ホームページに公表しますので、研究大会当日はそちらをご確認ください。
- 研究大会参加に伴うzoom ID等を第三者に提供することはご遠慮ください。
- 研究大会当日は、視聴時のカメラおよびマイクはオフにしてご参加ください。ご発言の際にはご自身でカメラおよびマイクをオンにいただき、発言終了後は再度カメラ、マイクをオフに戻していただきます。なお、音声の流入や全体運営に支障がある場合は、事前の通知なく接続を切断させていただく場合がありますのでご了承ください。
- 自由研究発表や総合部会の内容の写真撮影、動画撮影、音声録音、スクリーンショットは、原則禁止いたします。
- 参加時には事前にご自身のzoom画面上での表示名を「氏名（所属機関等）」に設定するようにしてください。
- 研究大会当日の参加者からの接続不具合や問い合わせには、実行委員会ならびに学会事務局では対応できませんのでご了承ください。

<第1分科会> 教育哲学・教育方法

司会： 上地 完治（琉球大学）

【1】 9：30～10：00

ポリテイア国家篇における太陽の比喻とプラトンの教育

東 敏徳（幼児教育専門学校（元））

【2】 10：00～10：30

教育哲学における「声」についての考察

—ナンシー／ラクーニラバルトとラカンの間の論争を手がかりに—

山本 源大（京都大学大学院）

【3】 10：30～11：00

「考え、議論する道徳」によって「答えが一つではない道徳的な課題」に上手く向き合えるようになるのか

——二重過程理論に基づくジョシュア・グリーンの道徳哲学を検討しながら——

山岸 賢一郎（福岡大学）

【4】 11：00～11：30

学校教育における自己調整学習者の育成に関する考察

—P. P. チェンとS. M. ボナーのCA:SRLの枠組みを手がかりに—

辻本 陸（九州大学大学院）

11：30～12：00 総括討論

<第2分科会> 比較教育

司会： 日下部 達哉（広島大学）

【1】 9：30～10：00

タイにおける軍事暫定政権の教育政策の特質
— プラチャラーット学校プロジェクトを中心に —

森下 稔（東京海洋大学）

【2】 10：00～10：30

中国における中学生社団に関する文献分析 — 教育的価値言説を中心に —

関 楽平（九州大学大学院）

【3】 10：30～11：00

韓国済州特別自治道における住民自治活動に関する研究

金子 満（鹿児島大学）

【4】 11：00～11：30

韓国における外国につながる子どものための包摂的な公教育の整備・拡充について
— 政府と地方教育行政の政策文書を中心に —

金 美連（熊本学園大学）

11：30～12：00 総括討論

<第3分科会> 教育史・キャリア教育

司会： 松本 和寿（筑紫女学園大学）

【1】 9：30～10：00

戦前から宗像郡における水平社運動と農民運動についての研究

竹永 茂美

【2】 10：00～10：30

青年師範学校の新制大学への包括過程に関する基礎的研究（2）

小田 義隆（近畿大学）

【3】 10：30～11：00

工業高校の教育実践と市民的レリバンス

— 『工業教育資料』『工業教育』の分析を通して—

○高橋 利明（兵庫教育大学大学院）

東野 充成（九州工業大学）

【4】 11：00～11：30

授業におけるキャリア教育の視点についての考察

— 中学校での実践を通して—

江口 賢一（鹿島市立西部中学校）

11：30～12：00 総括討論

<第4分科会> 社会教育・生涯学習

司会： 植村 秀人（南九州大学）

【1】 9：30～10：00

現代社会教育実践の展開論理に関する一考察
—日本の都市貧困地域における社会運動を事例に—

中山 博晶（九州大学大学院）

【2】 10：00～11：00

離島の単独自治体における地域と教育
—長崎県小値賀町の事例から—

○岡 幸江（九州大学）
○恒吉 紀寿（北九州市立大学）
○山城 千秋（熊本大学）
○溝内 亮佑（九州大学大学院）

【3】 11：00～11：30

地方における家庭教育支援施策の展開

嘉納 英明（公立大学法人 名桜大学）

【4】 11：30～12：00

環境教育における環境問題把握に関する一考察
—内山節の自然哲学を手がかりにして—

鎌田 宜佑（九州大学大学院）

12：00～12：30 総括討論

<第5分科会> 高等教育・教育行政

司会： 川上 具美（西南学院大学）

【1】 9：30～10：00

大学入学者選抜における公平性・公正性に関する研究
—イギリスの高大接続からの検討—

花井 渉（大学入試センター）

【2】 10：00～10：30

授業料政策を巡る葛藤：カリフォルニア大学の学費値上げ過程の分析

中世古 貴彦（九州産業大学）

【3】 10：30～11：00

米国カリフォルニア州における College and Career Readiness 政策
—アカウンタビリティシステムに着目して—

村上 和巖（福岡大学大学院）

【4】 11：00～11：30

在外教育施設での教育実習における制度的課題
—教員養成のグローバル化の実現にむけて—

鶴田 百々（中村学園大学）

11：30～12：00 総括討論

教育を受ける権利の実質化をめぐる

—教育機会確保法（2016年12月）成立5周年を機に、まずは夜間中学から考える—

提案理由

「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（以下、教育機会確保法）が5年前に議員立法によって成立した（2016年12月）。同法は、義務教育段階に相当する普通教育の機会の確保を国と地方公共団体に課すものであるとともに、これまで学校教育制度の周縁領域とされてきた公立夜間中学を設置促進し、公教育の枠組み外とされていた自主夜間中学やフリースクールなどに公的な性格を与え、予算などの公的支援や、上級学校への入学資格などの付与に道を拓いた。

これは、様々な要因によって教育を受ける権利（憲法26条）を侵害された人の、基本的人権を獲得する運動の成果であり、幸福追求権（憲法13条）や「基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」とする憲法97条（基本的人権の由来特質）の実質化であると言える。

しかしながら、この実質化は量的実質化と質的実質化を伴って初めて、教育を受ける権利が獲得されたと言えるだろう。同法では一県に一校以上の夜間中学の設置が促されている。福岡市教育委員会は2022年度に公立夜間中学を設置することを決定したとはいえ、全国的に見ると設置がなかなか進んでいない。早急な設置は行政の責務となっている。フリースクールも、財政的支援が不十分なままで、狭隘な場所に開設されたままだったりしている。「学校」と同等な量的実質化をはかる財政等の支援は喫緊の課題であろう。

また、質的実質化も重要視されねばならない。行政等による質的充実化のための十分な支援もないなかで、夜間中学やフリースクールが、公的な性格を付与されただけで、現行の公教育の矛盾の受け入れ先となっていく可能性をもつ。あるいは逆に、オールタナティブ・スクールなどが公教育からの積極的逃避先となって国民教育制度の分断化、複線化に寄与していくことにならないか。

教育学研究としては、とりわけ教育機会確保法に伴う教育の質的実質化とは何かを探究することが求められよう。そこで、2021年度の本研究部会では、夜間中学に焦点を絞り、夜間中学が目指すべき教育の「質」とは何かを論じていきたい。この「質」とは何かは多様であるが、ここではとりあえず、教育の内容や教育課程、生活指導、同僚性を伴う教師

の資質などとしておきたい。

まず、添田祥史氏（福岡大学）に、教育機会確保法下でのこれからの夜間中学の抱える課題を質的実質化の観点から整理してもらい、見城慶和（けんじょう よしかず）氏（えんぴつの会／元夜間中学教諭）に夜間中学での自らの教育実践について、何を大切にし、何を成し遂げたのかについてお話いただく。そして公立化を目指してきた自主夜間中学の立場から木村政伸氏（自主夜間中学・福岡『よみかき教室』共同代表）に、量的充実を求める運動下であって、いかなる質的実質化をはかっているかについて報告していただく。

最後に全体討論において、夜間中学の質的実質化、質的保障とは何か、何を目指すべきかを論じていきたい。

司会者

勝山 吉章 （福岡大学）

木村 拓也 （九州大学）

報告者

添田 祥史（福岡大学）

「教育機会確保法下での夜間中学の抱える課題」

見城 慶和（えんぴつの会 元夜間中学教諭）

「夜間中学の実践から」

木村 政伸（自主夜間中学・福岡『よみかき教室』共同代表）

「自主夜間中学の経験から」

◆◆◆ 九州教育学会第73回大会準備実行委員会 ◆◆◆

委員長： 上野 景三 西九州大学
事務局長： 大村 綾 西九州大学短期大学部
事務局員： 植田 啓嗣 福島大学
事務局員： 江口 賢一 鹿島市立西部中学校
事務局員： 中西 美香 佐賀県立佐賀商業高等学校
／佐賀大学大学院

大会支援担当理事： 山城 千秋 熊本大学
鈴木 篤 九州大学
乙須 翼 長崎国際大学

◆◆◆ お問い合わせ先 ◆◆◆

〒840-0806 佐賀県佐賀市神園3丁目18-15 西九州大学子ども学部内
九州教育学会第73回大会準備実行委員会事務局（上野研究室）
TEL 0952-37-9575 / E-mail : 73kyukyo@gmail.com